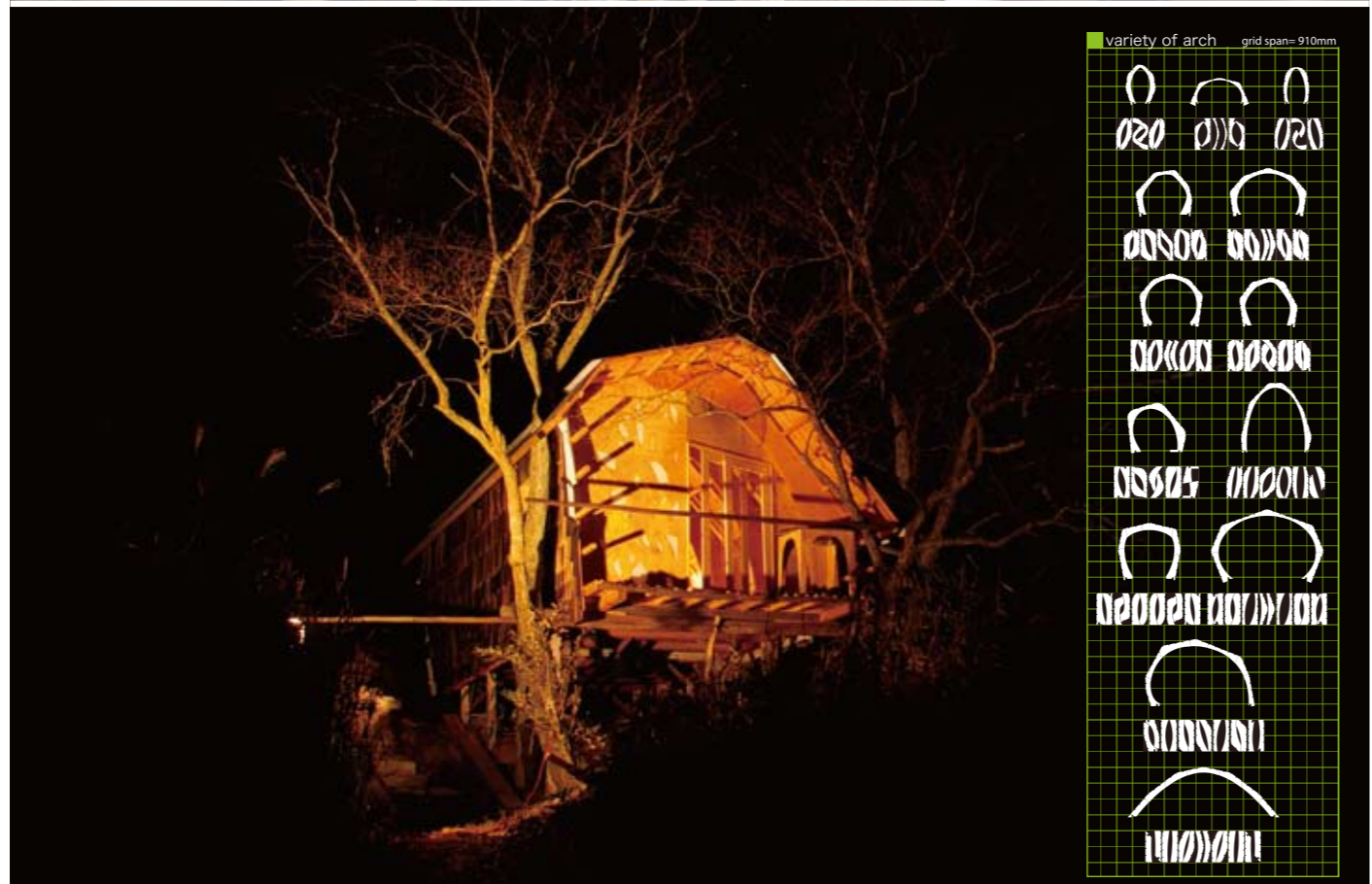


たてること すまうこと ねがすこと —住まいをめぐるひとつの試みを通して—

安福 友祐

建て主の想像力の助けとなるような構造用合板のアーチによるセルフビルドのシステムを考えた。「空間と人間の能力の歩み寄り」によりフレキシブルで豊かな空間作りを目指し、つくることが身近にある豊かな日常を描く。かつては建築家がいなくとも、豊か

な家ができていた。そこには自分たちの場所を獲得していくためのプロセスが存在していた。予測可能な世界を構築し、予測可能な自らを忘れた近代的思考の人間に心豊かに生きることは許されるのだろうか。素人による構造部以外プリコラーージュ作品です。



■ATELIER cott  
所在地／神戸市北区淡河町  
主要用途／アトリエ  
総工費／約30万円  
施工  
セルフビルド協力者／鎌田希来,新庄彩香,小澤龍,新妻忠志,太田宏美,柴尾あゆみ,菅平佑平,二川孝,山田晶子,岩倉ゆり,香川剛輝,辻友樹,河野哲也,中野富昭,竹田由佳,吉田奈央,八木康彰,久米貴大,溝口泰大,中井崇人,宇津木健,小杉雄太,森えりか,片倉ひろき,指宿身一郎,松田啓紀,馬本千咲子,瀧波美佳,大西健太,畑圭介,福永あすか,友田由貴,松田真一,松田孝二,松田美智,安福哲夫,安福久子,安福佳史,安福ひとみ  
構造・構法  
主体構造 木造アーチ  
基礎 東石基礎  
規模  
地上1階  
軒高 約4,200mm  
最高の高さ 約4,700mm  
敷地面積 約120㎡  
建築面積 20.8㎡  
延床面積 20.8㎡  
工程  
施工期間 2007年8月16日～2008年2月2日  
敷地条件  
市街化調整区域  
外部仕上げ  
屋根／ガルバリウム鋼板波板 平書き t=0.25  
外壁／杉板縦摺り目張り(南東側)  
焼き構造用合板シングル書き(北西側)  
テラス／杭原材張り キシラデコル塗り  
内部仕上げ  
玄関／防水白セメントモルタル金銀押さえビー玉洗い出し仕上げ t=25  
床／廃パン材乱尺張り オイルステイン仕上げ t=25  
壁／石膏ラスボード下地漆喰バラリ仕上げ  
囲炉裏／耐火モルタル陶器埋め込み仕上げ



■プロジェクトのはじまり  
近代文明の大きな力に飲み込まれ、土地固有のかけがえのない文化はほとんど消滅し、年々、過疎化高齢化少子化などにより地方の力は弱まる。問題はそこで生活を完結するシステムがないことに起因する。では作り出してみよう。元来、作り続け、伝承し続けて来たのが普通だった。現代の環境が変化し、人々は作り出す術を忘れた。その術をいま再び蘇らせることで地方文化の未来に一筋の光を導く。

■素人の技術であること  
かつて人々はそのところにあるものいろいろなもの作り出す術を知っていた。それを自分たちが属する共同体の中で共につくり出すプロセスは豊かであったことは想像するに難くない。現代においても豊かであるといえる空間が素人の技術によって実現したら、建築に求められる豊かさは技術的要素でないといえる。現代に生きるものもかつてのように、自ら家をつくる能力はまだ潜在しているのかを現代社会に生きる若者たちに協力してもらい確認する。そして精神的豊かさを獲得する手段としての真の住まい

■プロジェクトを終えて  
以上の住まいに住まい手のプロセス、ストーリーを組み込むという。試みを通して、現代においても一般にも手仕事による技術が潜在していることが実証された。真の住まいを模索してゆく試みは帰納的ながらも効果を示そうな実感を獲得することができた。多くの人に支えられ、言葉にならない感謝と感動を手にしてこの試みは一旦終了である。ここから住まう上で真の住まいに向けてのさらなる実験が時の流れとともに重ねられる。

